

こぶねだより

神奈川県立大船高等学校
校長通信 2月号
校長 富樫 由里子
令和2年2月25日

入学者選抜業務のために自宅学習が続いた在校生、21日は久しぶりの登校となり、校内に元気な声が響き渡っていました。自宅学習期間のある日、学校警備員の方が「生徒さんがいないと夜の戸締りはササっとできて楽なんだけど、何だかね、ちょっと寂しいですね」とおっしゃっていました。日頃から部活動などで早朝に登校する生徒に声をかけたり、忘れ物をした生徒の対応をしたりと、親身になって接してくださっているからこそその言葉だなあと感じました。

さて、昨年度はインフルエンザの罹患者が多く、学級閉鎖による感染防止の必要性も検討したほどでしたが、今年度は手洗いやマスクの着用、そして特に換気を徹底したおかげか、インフルエンザによる欠席はとても少ない状況です。一方、今年度は新型コロナウイルスの感染による発症事例がマスコミ等で報道されています。大学入試においても、新型コロナウイルスに感染して受験できなかった場合の救済措置としてセンター試験の結果を参考に合否を判定するなど、特別な対応をすると発表する大学も出ています。

本校におきましても、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策について引き続き注意喚起をするとともに、行事等の縮小実施等を検討しております。ご家庭でも十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事を心がけていただくとともに、発熱等の風邪の症状が見られるときには、無理をせずに自宅で休養していただき、必要に応じて医療機関で受診して

いただくようお願いいたします。文部科学省ホームページには「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」というサイトが設置されていますので参考になさってください。

「2月は逃げる」の言葉の通り、2月もあとわずか。3年生の大学受験も私立は終盤戦、国公立は2次試験が始まりました。3月3日は卒業式、4日からは学年末テスト、10日が採点日、その後進路やシチズンシップの講演会、球技大会と続きます。体調管理に十分配慮し、年度当初に自分の立てた目標の実現に向かって力を尽くしてほしいと思います。

放送委員会が連盟賞を受賞

優れた活動を行った文化部・委員会に対して県高等学校文化連盟から贈られる「連盟賞」に、放送委員会が選ばれることが決定しました。白帆祭、六国祭などの生徒会行事や式典等で音響関係の一切を担当する地道な活動の成果が認められたものです。

3年金井さん高校生新聞社賞に

高校3年間、学業、文化・スポーツ活動、生徒会、ボランティア活動など様々な分野で活躍した生徒を表彰する「高校生新聞社賞」に、金井遥香さんが選ばれました。新聞委員会編集部と白帆祭実行委員長としての活躍が認められての受賞です。

神奈川県立 大船高等学校	
金井 遥香	
学校の特色 1983年創立。古都鎌倉に位置し、郷土の豊かな自然と文化を愛する心豊かな人間を育てることを目標に置き、地域に信頼される学校づくりを目指している。誇り上がる時は盛り上がり、学ぶ時はとことんそれに向き合うことができる。	新聞委員会編集部員として活躍。 積極的に取材を重ね、充実した紙面を作り、神奈川県中学校・高等学校新聞コンクール優秀賞・県教育長賞を受賞。2年次に全国高校総合文化祭長野大会新聞部門に出場し、文化活動の活性化に貢献しました。また3年次には文化祭実行委員長を務め、数々の新企画に挑戦し、新しい風を吹かせました。
	

★欠席等の電話連絡は各学年をお願いします。

1 学年 0467-47-2374 2 学年 0467-47-2375 3 学年 0467-47-2376

★本校ホームページもご覧ください。 <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/ofuna-h/>

4月からホームページが新しくなっています。



◆勉強会の報告です

2月15日、東京で開かれた「社会から逆算する探究学習・最終回」という勉強会に参加しました。まずは、**鷗友学園中高等学校名誉校長の吉野明先生による講演「教育改革の理念は『絵空事』だったのか～今、改めて理念を問う～」**。

「日本の子供の**自己肯定感**は、中学、高校、大学と進むにつれて下降線をたどり20～24歳で最も低くなり、その後上昇する。学校教育を受けるにつれて自己肯定感が低くなり続けるというのは大きな問題。教科の成績、それもペーパーテストで測れる「認知的能力」が評価のたった一つの基準であることが関係しているのでは。予測不能な時代の教育では『**どんなに社会が変化しても、主体性を持ち多様な他者と連携し、協働しながら新しい社会を共に作る意志と能力**』が大切」と語り、「**非認知的能力（社会情動的能力）**」育成のための様々な実践を紹介してくださいました。

続いては**茨城県立並木中等教育学校 中島博司校長による講演及びワークショップ「真の『アクティブラーナー』を育てるために～探究につながるアクティブラーニング～**」。

中島先生は敢えて「アクティブラーニング」という言葉を使います。アクティブラーニングという言葉の持つ力の大きさと、「AL」と略せることによる使い勝手の良さを評価しているためです。当日、耳に残ったキーワードは・・・。

「AL指数は5～20（5分授業なら2分30秒～10分）」

「毎月1週間の『授業ちょっと見週間』でお互いの実践を共有」

「ALで身につけさせたい力は『論理力（相手の主張の筋道を読み解き、自分の考えを整理して伝える力）』）」

「ALの目標はアクティブラーナー（能動的学習者）の育成」

「ALでも最後は一人でリフレクション（振り返り）」

「これからは『AAL（アートアクティブラーニング）』。感性（センス）を磨け！」

「日本語の4技能、とりわけ『話す』トレーニングは非常に重要」

「『探究』はプロセスが大事、『研究』は結果が大事。『探究』で学力が向上し、授業が楽しくなる。『探究』こそ高校で。『研究』は大学に入ってから。」

パワフルな先生方に刺激された、エキサイティングな4時間でした。

「**風に鳴る帆**」——大船高校の校歌のタイトルです。「〇〇高校校歌」以外のタイトルを持つ、4分の3拍子の校歌は県内でも珍しいのではないのでしょうか。1番は空間的な広がり、2番は時間の流れを感じる素敵な歌詞です。生徒が筆で書いた歌詞が校長室に飾ってあって、毎日励まされています。



★「こぶねだより」はホームページに掲載するとともに、保護者の皆様にはプリントで配布していましたが、すでにお伝えしているように、12月号から、マチコミによる発行のお知らせに変更しております。

★神奈川県教育委員会では教育のICT化を進めており、すべての高校に学習用のタッチパネル機能付きノートPC82台が配備されるとともに、BYODを可能にするWi-Fi環境が全HRに整備されました。この環境を活用していくことに関する保護者の皆様へのお知らせを、昨年末にマチコミで配信しました。学校では生徒のデバイス（スマートフォン、タブレットなど）の登録作業を進めていますが、「校門に入るときにスマートフォン等の電源を切ってカバンにしまう」というルールは変わりません。あくまでも学習活動の質の向上を目的とし、授業中に教科担当教員指導の下で学びのツールとしての使用に限定されていますので、ご家庭でもご理解をお願いいたします。